

令和5年度 北海道CLASSプロジェクト実施成果報告書(3年次)

学校名	北海道上富良野高等学校
作成日	令和5年12月20日

1 今年度の検証について

①	検証の項目	Collaboration 地域課題を題材とした探究活動の実施
	検証の方法	地域と関わったテーマがどれだけあるか。地域の関係機関との連携がとれたグループがどれだけあるか。
	検証結果	2年生の課題設定においては、全てのグループが地域に関連するテーマを設定した。また、地域と連携した商品販売会や町役場等でのアンケート実施など地域の関係機関と連携した取組があった。

②	検証の項目	Literacy 地域素材を活かした教科横断型プログラムの開発
	検証の方法	教科横断型のプログラムをどう実践したか。
	検証結果	地域探究Ⅰ(探究の基礎を学ぶ)において、情報の検索方法、論文の読み方などは国語科・情報科・商業科・地歴科・公民科が、フィールド調査の方法については理科が、インタビューの方法については英語科・家庭科・保健体育科が主体となり授業を行い、各教科では地域探究に必要なカリキュラム構成を検討するなど教科横断型プログラムを実践することができた。

③	検証の項目	Adult 地域の大人が子供とともに取り組む探究活動の実施
	検証の方法	どれだけの地域人材が探究活動に関わったか。
	検証結果	地域探究Ⅰでは、地域人材交流会において6名の方のインタビューの協力を得た。 十勝岳ジオパーク協議会・大雪青少年交流の家の方々はフィールドワークや発表会の評価などに関わっていただいた。 地域探究Ⅱでは、5グループ全てが地域の方と関わりがあり、課題研究を進めることができた。特に、商品開発では地元のコミュニティカフェの方の協力もあり、販売会を実施することができた。 地域探究Ⅲでは、地元のパン屋との商品開発・販売会を実施。探究活動の成果を「町長への提言発表会」という形で発表する機会を得た。また、その内容に対して町役場が実現に向けてうごいてくれるなどの成果を得た。

④	検証の項目	Student 育成する生徒像に関わる評価
	検証の方法	育成すべき資質・能力について、どれくらい達成できたか。(自己評価、外部評価)

検証結果	生徒の自己評価アンケート（別紙）によると、育成すべき資質・能力について、探究活動において向上したと捉えている生徒がほとんどであり、コンソーシアム会議においても3年生の成長について肯定的に捉えている発言が多くあった。
------	---

⑤	検証の項目	System 地域コーディネーターと連携した事業の構築
	検証の方法	どれくらいの割合でコーディネーターが事業に関わったか。次年度以降の体制を整備することができたか。
	検証結果	3年間を通してフィールドワークへの協力、探究活動に対するサポートと評価、地域人材の発掘、学校と地域のパイプ作りと多くの場面でコーディネーターは事業に関わって頂いた。次年度以降についても十勝岳ジオパーク協議会からは可能な限り協力していただけるとの回答を頂いている。

2 当事者の声について

生徒	<ul style="list-style-type: none"> ● 良かったことは地域について色々な知識がついたこと。理由は、上富良野町のことを知らなかったが、カントリーサインのことだけでなく、ジオパーク、豚サガリ、パンフレット、公園、ごみのことも知ることができた。自分の住む富良野のいいところや課題はなんとなく知っていたが、近くの町のことは全然知らなかったから上富良野町のことを知ることができた。また、日高や全国の地域のことも知ることができたのも地域探究の活動をしたからだと思う。 ● 正解がない課題に対して自分ができることは何なのかを熟考するようになった。わからないなりに課題解決に向けてできそうなことをできるだけやることも大事だということに気付かされた。 ● 活動を通して良かったことは、発表の気持ちよさと、街の調査です。発表の良さに気づいたのは、町長提言のとき、やる前とかは、やだなあとかやりたくないなあとか思いながら役場に行ったけど、いざ発表をして、終わったあと、ものすごい達成感と、鎖から解き放たれたかのような解放感に襲われました。
教諭	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員によって指導に差が生じないように、研修を重ねる必要がある。 ● クラスプロジェクトが終わったあとでも自走できるような研修 次の学校のこと考えると全員が同じ方向を向いて探究活動に取り組まないといけない。 ● 3年間で生徒が積極的に地域に関わる活動が構築されてきたと思う。この事業を行ったことで、探究活動をきっかけにさまざまな視点で地域を知るきっかけができたと思う。
地域の方	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の学生が地域の大人たちと対話をする機会はとても意義深いのではないかなと思います。ぜひ引き続き実践して行ってほしいと思います。

	<ul style="list-style-type: none">● 全国各地で高校生と議員が一緒にまちおこしのことをしている所があるので上富良野でも 町議会議員ってなにしてるの？みたいなテーマから始まって高校生と一緒に町作りを考えていく機会あったらいいなと思っています。● 日常の中で上高生と話したり、今回上高生と接してみた中で、以前上富良野高校に行かせて頂いた時に感じた生徒の雰囲気より、生徒が明るくなっていた印象があります。また緊張しながらも一生懸命話す姿がとても微笑ましく、改めて生徒、講師お互いにとっていい機会を設けて頂いたことに感謝しております。
--	---

3 今年度（令和5年度）の取組について

月	コンソーシアム会議・関係者打合せ等	主な学習活動
4	第1回探究推進委員会 コーディネーター打合せ	【1学年】 課題発見プログラム（4月）
5	第2回探究推進委員会	情報収集プログラム（5～6月）
6	第1回コンソーシアム会議 コーディネーター打合せ	仮説検証プログラム（8～9月） 地域人材交流プログラム（10～11月）
7		地域課題テーマ設定（12～3月）
8	コーディネーター打ち合せ	【2学年】 地域探究テーマ設定（4～5月）
9		テーマ発表会（6月） 地域探究活動（6～3月）
10	コーディネーター打合せ 第2回コンソーシアム会議	生活体験顕彰制度応募（11月）
11		地域探究ポスター発表会（12月）
12	コーディネーター打合せ	探究チャレンジ上川（12月）
1		生活体験顕彰制度発表（1月）
2	コーディネーター打合せ	【3学年】 地域探究活動・発表準備（4～6月）
3	コーディネーター打合せ 第3回コンソーシアム会議	町長への提言発表会（5月） 地域探究町民発表会（6月）

4 自走可能な体制整備に向けた方策について

学校設定教科・科目「地域探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を教育課程に設定。次年度が完成年度になるが、教科として全校的に探究活動を推進していくとともに、それぞれのプログラムで普通教科と連携しながら全体として運営する体制を構築していく。

また、継続してコンソーシアム会議の構成員やコーディネーターと連携する方策についても検討している。

5 圏域の研究指定校等、他校との連携・交流について

令和4年度に協力校の豊富高校とオンラインで接続し、お互いの地域と関わった探究活動について交流会を実施した。今年度も同様に遠隔での交流会を予定している。また、旭川西高校が主催する「道北圏探究フォーラム2023」に2チームが参加し、自校の取り組みを発表するとともに、他校の地域と関わる活動について交流することができた。

6 学校独自の取組・工夫

◎学校設定教科・科目「地域探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の設置。
「地域探究Ⅰ」では探究活動の基礎と地域を知る活動を中心に、他教科と連携しながら実施するプログラムを構築した。「地域探究Ⅱ」では実際に地域の課題を設定し、場合によっては地域の方と連携しながら探究活動を実践している。「地域探究Ⅲ」（今年度は「総合的な探究の時間」）では、地域課題解決に向けた探究活動の成果を町民に還元するために町長への提言発表と、町民に向けた成果発表会を実施している。全ての授業において、地域コーディネーターの方と連携し地域との接続に協力いただいている。

7 その他特記すべき事項

< 3年間のまとめとして >

8 3年間の成果

●スクールポリシーにそった活動実践
この事業を通して、スクールポリシーに則った探究活動を柱とする授業を構築することができた。生徒のアンケート結果の変遷を見る限りでも、このプログラムを実践することで、本校の育成すべき力に対する効果を客観的に評価することができるようになった。更に、それぞれのプログラムが様々な教科と連携することで、学校全体として指導する体制を築くことができた。

●地域との「連携」から「協働」へ
以前まで様々な場面で協力いただいていた十勝岳ジオパーク推進協議会と連携したことで、地域との接続の強化につながった。その結果、探究活動の実践では、地域の方と協働して活動する班も増えてきた。一緒に活動していただいた方も、協働することで、生徒と一緒に学んでもらう機会となったのではないかと考えられる。

これまでは、地域から生徒に供給してもらう活動が多かったが、「町長への提言発表会」を実施し活動の成果を町に還元することもできた。実際に町の公共施設の改善や、新しいカントリーサインの提案といったところで、高校生の視点から町民を代表して町の政策に一考を投げかけるきっかけとなっている。さらに、町民発表会はもとより、町の広報誌や様々なメディアにその活動を取り上げていただくことで、町民にも高校生の活動に興味を持ってもらい、協力だけでなく協働して活動

するきっかけになっていると考えられる。

●地域に主体的に関わる意識の育成

3年目に実施した「地域人材交流会」では、高校生が主体的に地域の課題に向き合うきっかけとするため、講演ではなく少人数で様々な地域の方と語り合う形で事業を実施した。この事業によって、生徒がなかなか気づかない地域の魅力発見にもつながった。今回は様々な分野の6名の方をお願いしたが、どの方も非常に協力的で熱心に高校生と対話していただいた。更に、その方々のネットワークによってより多くの地域人材の方を紹介いただき、今後もこの事業を継続することで、地域と学校とのつながりが強くなっていくと考えられる。

3年間の実践を通して、「探究活動」を軸とした事業をもとに、地域コーディネーターの方と協力して事業を改善してきた。その結果、卒業生の中には、地元地域はもとより、道内の同じような地域の活性化を目指して就職した生徒もおり、この活動の成果がうかがえる。生徒が探究活動を通じて地域を学び、地域と協働して活動し、地域に貢献する活動につながったと考える。

9 3年間の課題

●学校設定教科「地域探究」の評価

学校設定教科「地域探究」の評価については、現在も様々なプログラムの節目でルーブリックやレポート等の成果物で評価を行っている。しかし、プログラムによって担当者が異なり、評価の集約に手間がかかっている。より、それぞれの担当者の評価をよりスムーズに全体評価につなげるようなシステムの構築が今後の課題である。

●地域コーディネーターの継続的な確保

現在地域コーディネーターとして関わっていただいている方の、今後の協力体制維持は1つの課題である。これまではCLASSプロジェクトの予算により、一定の報酬の元、業務に関わっていただいた。地域コーディネーターの存在は、学校と地域の橋渡しとして非常に重要な存在であり、今後も地域探究の事業の継続や改善にむけて欠かすことのできない存在である。この体制をどの様な形で維持できるかが検討課題となっている。

●主担当者の負担と引き継ぎ

また、学校設定教科「地域探究」のプログラムはある程度骨組みができてきたが、その主担当となる教員の負担や引き継ぎの難しさが課題である。主担当教諭は、自分が担当する教科に加えて、地域探究事業全体の計画や統括、評価さらにコーディネーターの方への連絡、協議など多岐にわたる。ある程度本校の実態や、地域にアンテナを貼りながら連絡を取るなど外部とのつながりを引き継ぐことができるかどうか、今後課題となってくる。